第3回 豊岡市公営企業審議会 議事録（要旨）

開催日時	2025年7月15日（火） 13時58分から15時27分まで
開催場所	豊岡稽古堂 3階 交流室3-1
出席した委員	都築会長、瓶内副会長、坂本副会長、上田委員、島崎委員、中易委員、難波委員、西村委員、橋本委員
事務局	上下水道部 谷垣部長 水道課 縄手課長、佐伯参事兼課長補佐、 福井水道経理係長 下水道課 野畑課長、羽瀧参事、青山課長補佐、 山本主幹兼下水道経理係長
傍聴者	なし
司会進行	事務局、会長

1 開 会（13時58分）

2 会長あいさつ

3 委員紹介

上田委員による自己紹介

4 議事録署名委員指名

議事録署名人について、慣例により、委員名簿順（会長・副会長を除く）とし、中易委員と難波委員を指名

5 議 事

(1) 今後の水道料金・下水道使用料のあり方について《料金等改定の検討》

会 長：前回について振り返ってみたい。

市長から、今後の水道料金、下水道使用料のあり方について諮問を受けた。事務局から提示された収支の見通しでは、次の5年間は、水道は比較的良好な状況、下水道は厳しい状況だった。それを受けて、本審議会においては、水道料金については据え置きが妥当かどうか、下水道使用料については値上げが必要なのかどうかという判断が必要だという結論に至った。

そこで、本日はより踏み込んで、2024年度を決算値とする新たな収支見通しを、事務局から提示してもらって、その判断をしようというのが今日の審議の目的だ。

まず、「1 水道事業 今後の収支見通し」について説明願う。

事務局から「1 水道事業 今後の収支見通し」について説明
(質疑)
なし

会 長：今回の収支見通しは前回の審議会で提示された収支見通しに、2024年度の決算速報値と、新たな人口ビジョンを反映したもの。
人口の減り方がより激しくなり、料金収入の減少スピードが上がっているが、2031年度までについては、単年度損益、補てん財源、現金の状況を見て、現行の料金を据え置いても大丈夫だろうとの見込み。
さらに先の話だが、2035年度以降赤字が続く傾向にあるため、この5年間の料金を据え置いたとしても赤字を減らす方向で、方策をしっかりと検討してもらいたいと考えている。
このような課題や条件を付した上で、この5年間については、事務局から提案の通り、現行の料金を据え置くという形でいきたいと思うがどうか。

委 員：(異議なし)

会 長：それでは、今話した内容を答申に盛り込んだ上で、水道事業については現行の料金を据え置くこととする。
続いて、「2 下水道事業 今後の収支見通し」について説明願う。

事務局から「2 下水道事業 今後の収支見通し」について説明
(質疑)

会 長：前回提示された見通しよりも収支見通しが悪化している。
収益的収支のところの一般会計繰入金等に着目してほしい。
2027年以降、下水道の使用料は確かに少しずつ減少するが、それ以上に一般会計繰入金等が減少しているので、これが問題ではないか。
まず検討すべきは、一般会計繰入金等が減る点ではないか。

事務局：一般会計繰入金等には総務省が決めた繰出基準があり、そのひとつに下水道施設ができて30年間の元利償還金に対するものがあるが、それがもうすぐ終了する。
致し方無いと思うところはあるが、財政当局とは、何か手だてはないか、調整したいと考えている。ただ減額となる全てを補てんすることは難しいと考えている。

会 長：ということは、まだ余地が残されているということ。一般会計からの繰入金を活用できるのかどうかを、まず検討するのはどうか。

事務局：今回の見通しでは、資産維持費を使用料に含んでいない。今後は含めたいこともあり、使用料の改定は必要だと考えている。

会 長：今の説明では、一般会計から繰り入れがあったとしてもそれは使えないということか。

事務局：使えないのではなくて、おそらく減額する金額相当のものはもらえないと考えている。赤字自体が少し減る程度のイメージしかない。

会 長：もらえないのは確定か。公算が高いということと、実際に確認しても無理は意味合いが違う。

事務局：明日、財政課と話はする。

会 長：心配なのは、例えばそれで一般会計からの繰り入れがあったとしても、それでも足りないので使用料を上げて対応する場合、どの程度なのかが問題。公共性が高いのだから、税金で賄う考え方もあると思う。

使用料を上げるには、慎重な議論が必要だと思う。

経費負担の原則で、効率的な経営をしたとしても赤字が出た場合は、一般会計からの繰り入れができるルールがあったと思うが、そこも検討すべきである。

事務局：その辺りは、今後詰めていきたいが、公営企業というのは独立採算ということが原則にあるので難しいと考える。

会 長：公営企業の会計を教えたことがあるので、原則は独立採算だとは理解している。ただ、料金を値上げし過ぎた結果、構造的なサービス提供ができなくなってしまう、利用できなくなってしまうということならば、一般会計から繰り入れができる経費負担区分の原則があったと認識している。実際にできるかどうかかわからないが、検討しないといけないと思う。

事務局：検討する。

委 員：財政と交渉というのはどういう話をするのか。

事務局：一般会計繰入金が減ると事業が滞るので、一般財源を使ってでも、負担をしてもらえないかというお願いになる。

委 員：それを下水道課が財政と交渉するのか。別に議員が入るわけでもなく。

事務局：はい。

委 員：それは言われたら、うんと言うしかない。どういう抵抗をするのか。

事務局：市の方も、財政的に厳しい状況ではあるので、どこまで、お金をもらえるようなことができるのか。逆にどういうふうにしたら財源を見いだすことができるかとか、そういう違った面でも話はしたい。

会 長：ほかに質問等あるか。

委 員：資産維持費は、下水道事業ではあまり馴染まないような気がする。そのあたりは、これからの課題だと思うが。

事務局：平成29年に、国から資産維持費を入れてもよいという指導が出ている。

委員：下水道使用料は、合併当時に喧々諤々して、審議が滞ったこともあったので、資産維持費が初めて出てきたときに、非常に苦しいハードルだと私は記憶している。やはりまず一般会計繰入金を切り口として、会長が言われた形が大事だと思う。

事務局：資産維持費は、過去にはあまり触れられていないというか、一般的に取られてなかった。ところが、施設更新で、やっぱりそういうものが必要だろうということで、水道事業が先に積み上げなさいというところで始まってきたと認識している。

少し遅れて、下水道事業についても資産維持費が盛んに言われるようになり、独立採算を基本とするというところもあり、下水でも取りましようが変わってきた。

財政側からすると、そこもきちんと抑えたいと、財政側からは歩み寄れないというところの話になるのではないかと考えている。財政としても資金は税金なので、それを受益者が負担すべき公営企業、水道下水道に対して拠出してよいのかというところが原則としてあるものと思う。

そんな中でも、市民の皆さん、業者さん、事業者さん、皆が使っている上下水道なので、そういったところも、話をしながら、財政側からの支援をもらいたいと考えている。

あと、今回、値上げありきではなく、下水道事業としての経営見通しがこういう状態で、さらには、次回以降は数字を加えたうえで、どの程度が必要なのかというところで、審議を続けてもらいたい。

会長：ほかに質問等あるか。

委員：人口減少が進むなかで料金を改定して上げていかないと仕方がないのはわかるのだが、水道事業には少し余裕があるということだったので、その余裕を、下水道事業に回すということはできないのか。

事務局：別の事業なので、できない。

委員：先ほど、一般会計繰入金については、交渉の余地があると言われていた。その交渉の余地を踏まえると、両建てで料金改定を考えないといけないと感じる。

進めていくには、どちらかが決まっていなくて難しいと思う。

今後この料金改定の話、審議会はどう進んでいくのか。

事務局：一般会計の繰入金だけではなくて、資産維持費についても進めていきたいと考えている。一般会計繰入金は、少しでも負担してもらえたら、楽になるのではという程度にしか考えていない。

委員：次回から、数字的なものが出てくるという話があったので、そういった数字も出てくるというような理解でよいか。

事務局：そのように考えている。

会 長：ほかに質問等あるか。

委 員：次回以降の議論も含めて、ざっくりとしたスケジュールを以前、示されたが、もう少し何か、どんなステップを踏んでいくかを教えてほしい。どういう議論をしていったらいいのかが考えられると思う。
あと、まとまった数字がポツと出ているが、できれば事業計画みたいなものとセットにしてもらいたい。普段、あまり関わっていないので内訳がよくわからない。できる範囲でいいのももう少しどんな内容かかっていうのを、併せて教えてほしい。

事務局：事業計画については、次回お示ししたい。

今後の展開については、これから説明するような内容について、金額を入れたものをお示しする。

それから先については、次回お示ししたい。

委 員：料金改定までにどんなステップが必要かを示してもらえたらそれでいい。

事務局：この後、審議の流れを説明するので、そちらで確認してほしい。

委 員：交渉の余地があるようなこと、我々が期待するようなことを言われるが、実際どうするのか、と感じる。

財政課と、そんなに交渉の余地があるのか。

事務局：できるかどうかの話し合いを明日する、ということ。

委 員：財政があかんとなるとそれまでと捉えてしまう。受益者負担だとかあるので、話し合いになるのか。財政とどのような話をして、どこを落としどころとするのか。無いなら、使用料を上げることを考えたらいい。

事務局：多分、無理。

委 員：甘いようなことを言われるとつい期待する。

事務局：ただ、私たちもできることはしないとイケない。そのなかで、財政に訴えていく。審議会で、財政側からどうにかならないのかという意見があったことは出していく。

財政側には、中身は税金だということもあり、かなり厳しい話にはなると思う。

私たちも、できることを打ち出さなければならない。とりあえず、一歩でも前に行けるのならばやっておかないとイケない。

逆に、ここで何もしません、できませんでしたってわけにいかない。

委 員：先ほどの説明では、交渉次第でかなりのことができるのかなって期待してしまう。

事務局：かなりとまではならないかもしれないけど、頑張ってみるということ。

会 長：そもそも一般会計からの繰り入れが無理と拒否されたときに、使用料がどれだけ上がるのかってことが大事。

ここの確認無しに、はいわかりましたってなって、使用料をすごく上げることになる、また難しいことになる。

現状としてどの程度なのか想定して、考えておいた方がいい。

事務局：最終的には政策的なところで、これぐらいまでをっていうところもあると思う。

ただ下水道事業としてここまでは何とかしたいなど。

使用料を上げないとできないっていうところを財政側にも訴えていって、それで、じゃあ支援しましょうかとなる場合もある。いろいろと工夫していきたい。

会 長：一般会計からの繰入金金の精査が必要と、あとそれ以外にも、いろいろな意見が出た状況を踏まえて、現時点では、下水道の使用料を見直すとは決めがたく、次回以降、検討したほうがいいと思うがどうか。

委 員：(異議なし)

会 長：それでは、現時点では、下水道の使用料を見直すとは決めず、次回以降、さらに検討することとする。

下水道の使用料を見直すかどうかは引き続き検討していくが、資料にある「3 審議の流れ」と「4 下水道使用料算定の基本的考え方」は、仮に下水道使用料の見直しということになればという前提で、事務局から説明を受けて質疑をしたいと思うので、ご理解願う。

続いて、「3 審議の流れ」について説明願う。

事務局から「3 審議の流れ」について説明

(質疑)

なし

会 長：続いて、「4 下水道使用料算定の基本的考え方」について説明願う。

事務局から「4 下水道使用料算定の基本的考え方」について説明

(質疑)

委 員：減価償却は、定率法、定額法のどちらか。

事務局：定額法。

委 員：なぜ、定率法ではないのか。

事務局：地方公営企業は、定額法で行うことと決まっている。

委 員：一般では、ほとんど定率法が導入されているが。

事務局：公営企業は定額法と決まっているので、変更できない。

委 員：投資とか新しい設備をやろうと思えば、減価償却の範囲内であるのが、一番健全なやり方だ。

事務局：減価償却の年数は、管路は50年、機械電気設備が、15年から35年。フ

ル償却ではなく、95%償却で5%が残る。その条件で計画した。

委員：収支見通しの書き方が見慣れない。例えば、長期前受金戻入は、お金が入ってこないが、そういうこともあって、お金の動きが少し見えにくい。

また、企業債を償還しているが、その分、企業債残高が減っているわけではない。新たな借り入れも含めて、もう少しわかりやすくしてほしい。

事務局：減価償却や、長期前受金戻入は、非現金で、内部留保するもの。

ご質問は、キャッシュベースでどうかということか。

委員：そこもあるが、見慣れないので、次回、理解できるのか不安だ。一般企業のだと何となくわかる部分もある。

実際にどういう状況なのか、貸借対照表はあるのか、もう少し経費についても、細かい内容を知りたい。

事務局：借金の残高については、償還する以上の借入れをしていないので、残高は徐々に減っている。そのように計画している。

委員：固定資産の残高はいくらか。次回でもいい。

事務局：即答しかねるので、次回お示しする。

会長：事務局は、次回に資料を提示してください。

以上で本日の議事は終了した。委員から事務局へ意見要望等あるか。

委員：料金値上げ、どの程度のインパクトなのか想定を知りたい。どれぐらいの思いを持って取り組まなければならないのかがあるので。

事務局：できるだけ、様々なパターンを示したい。今回は含めていない、物価上昇や、耐震化に対する事業を含めていきたい。

委員：耐震化だと国の補助金とかの状況も変わってくるだろうから、その辺りも含めてインパクトがどうかということ。

6 その他

事務局から、次回（8/12(火)午後2時）の開催予定について説明。

7 閉会（15時27分）

瓶内副会長あいさつ